

デジタルの力で切り拓く
誰もが輝き幸せに満ちたまち

小 値 賀 町 DX推進計画

概要版

目指す姿

デジタルの力で切り拓く 誰もが輝き幸せに満ちたまち

小値賀町の魅力を未来へ継承するため、行政運営を改革し、データ基盤整備や意識改革を推進します。デジタル化で生まれた余裕を活かし、地域の隅々まで見渡し、目の行き届いた、顔の見える優しい行政サービスを展開していきます。

大切にすること

1 サービスデザイン思考

町民目線のシンプルなデジタルサービスを提供し、高齢者や障がい者を含む全町民が恩恵を享受できるよう配慮します。

3 対話と連携

町内外の人材と連携し、地域経済の活性化と持続可能なまちづくりを推進します。

5 一歩ずつ、一貫して進む

小さな成功を重ねながら、アナログから無理なく変革を進め、持続的な改善を実現します。

2 BPR（業務改革）

業務の「見える化」と自動化で職員の負担を減らし、行政サービスの質を向上させます。

4 失敗を恐れず挑戦する

挑戦を支える文化を育み、地域の特性を活かした柔軟な発想でデジタル変革を進めます。

行政のDXでは、業務の可視化や効率化を図るため、紙文書や押印の慣習を見直し、ペーパーレス化とオンライン手続きを促進するとともに、RPAやAIの導入などデジタル技術を活用して職員負担を軽減し、情報発信の精度向上や資産管理の最適化を進めます。これにより組織全体のデジタルリテラシーを高め、効率的かつ柔軟な財政運営を実現します。

戦略1

「変革への挑戦」

行政改革でもっと身近な行政へ

徹底的なBPRとシステム標準化によって業務を可視化・効率化し、紙文書や押印の慣習を見直してペーパーレス化や窓口の一本化を進めます。また、RPAやAIの導入を検討し、職員の業務負担を軽減します。

具体的な施策

1. 電子決裁システム・文書管理システムの導入
2. 20業務のシステム標準化の推進
3. 業務プロセスの見える化とBPRの徹底
4. 窓口業務の一本化



戦略2

「ポケットにいつでも行政を」

スマホで完結する行政の実現

各情報発信媒体を連携させ、効果的に情報を発信します。さらに公式LINEのセグメント配信機能を活用して、利用者に合った情報を的確に届けます。行政手続きのオンライン化を進め、デジタルデバイドの解消に向けた講座も開催します。

具体的な施策

1. 町民に向けたプッシュ型通知による積極的な情報発信
2. 公式LINEアカウントからの各種手続きの拡充
3. デジタルデバイドの解消を目指したデジタル講座の開催



戦略3

「デジタル時代を担う」

デジタルに強い職員の育成

職員一人ひとりが基本的なデジタルツールを効果的に活用する能力を身につけ、デジタルリテラシーを向上させます。また、外部のデジタル人材を活用し、最新技術の知見やノウハウを共有することで、組織全体のDX推進を加速します。

具体的な施策

1. デジタル人材を育てる職員研修の開催
2. 外部デジタル人材の活用によるDXの推進



戦略4

「選択と集中で実現」

持続可能なデジタル財政運営

限られた職員数や財源の中で効率的・効果的な財政運営を実現するため、「選択と集中」を徹底します。同時に、デジタル技術で公共施設や財産を可視化し、最適な資産管理と維持コストの削減を図ります。予算編成や事業評価もDXの視点で継続し、状況の変化に柔軟に対応します。

具体的な施策

1. デジタルを活用した公共施設の管理の一元化
2. 予算編成プロセスでのAIの活用



ひとのDXでは、子育て環境の充実を図るため、「こども家庭センター」を設置し、相談支援やデジタルツールの活用を推進します。学習支援ではデジタル活用を進め、地域探究活動の強化を図ります。移住・定住促進に向けた住宅支援や、移住サポートセンターの体制強化を進めるとともに、地域の担い手育成に向けた研修や人材シェアの仕組みを構築します。

戦略1

「いつもあなたの側に」 寄り添う子育て窓口の実現

「こども家庭センター」を設置し、子育て相談の窓口を整備します。外部リソースやデジタルツールを活用し、支援体制を充実させます。マニュアル化や情報共有を徹底し、一貫した対応を実現します。

具体的な施策

1. オンライン相談窓口の整備
2. デジタル母子手帳アプリの導入
3. 地域リソース活用型子育て支援プログラム



戦略2

「もっと学びを自由に」 デジタルで実現する未来の学び

デジタルツールを活用し、多様な学びや保護者との情報共有を推進します。小中高一貫の地域探究活動では、学校と教育委員会が早期にテーマを共有し、地域と生徒のつながりを深める取り組みを強化します。

具体的な施策

1. 島外（海外含む）とのオンライン交流・学習の導入
2. 地域メンター制度のデジタル化



戦略3

「ここで暮らし、成長する」

未来を支える人材輩出の町へ

住宅支援や空き家バンクの強化により移住・定住を促進します。移住サポートセンターの支援体制を強化し、住まいや仕事を一貫支援します。さらに、地域の担い手を育成する研修や人材シェアの仕組みを構築します。

具体的な施策

1. 「小値賀町移住サポートセンター」を開設
2. デジタルを活用した空き家バンク制度の情報発信



コラム①

DXとは？

デジタル技術を活かして、より暮らしやすい町へ

「DX（ディーエックス）」という言葉聞いたことはありますか？これはDigital Transformation（デジタル トランスフォーメーション）の略で、デジタル技術を使って社会や経済の仕組みを大きく変えていくという考え方です。けれど「変える」といっても、ただパソコンやスマートフォンを導入すれば良いわけではありません。わたしたちが目指しているのは、**デジタル技術を上手に取り入れて、町民のみなさんが使いやすいサービスや社会に作り直していくこと**です。

町民サービスの向上がいちばんの目的

これまでは「デジタル化」というと、経費や人員を減らすために導入するというイメージが強かったかもしれませんが、しかし、**DXの本当の目的は、町民サービスをより良くすることにあります**。たとえば役場に行かないと手続きできなかったものが、パソコンやスマートフォンで簡単に済ませられるようになると、時間や手間、交通費などが大幅に減り、暮らしがもっと便利になり、ゆとりも生まれます。

くらしのDXでは、デジタル技術を活用し、医療・介護・防災・行政サービスの効率化を推進します。医療・介護の情報共有基盤を整備し、医師不足や介護負担の軽減を図ります。防災情報の迅速な伝達や庁内の災害対応強化も進めます。ごみ分別の周知向上や野良猫対策、デマンド交通の検討も継続。会計業務や施設管理のデジタル化を通じて、住民と職員双方の利便性を向上させます。

戦略1

「離島の健康を守る」

デジタル医療体制の構築

医師不足対策としてオンライン診療や医療機関の連携を強化し、遠隔地の専門医と協力体制を構築します。医療・介護データベースを整備し、情報共有や業務効率化を図り、デジタル技術を活用した健康支援も推進します。

具体的な施策

1. オンライン診療の導入と遠隔医療体制の強化
2. 医療・介護データベースの構築と情報共有基盤の整備
3. オンライン資格確認システムとの連携による業務効率化
4. ドローンを活用した医薬品配送サービスの導入



戦略2

「すべての人にやさしい未来を」

デジタルの輪でつくる安心と笑顔あふれる福祉の実現

医療・介護データベースを整備し、診療・介護状況のリアルタイム共有を実現します。ICT活用による業務効率化で介護職員の負担を軽減し、地域住民や民生委員と連携し、高齢者や障がい者の見守り・生活支援を強化します。

具体的な施策

1. 医療・介護情報共有プラットフォームの構築
2. 介護現場へのICT機器導入
3. AIを活用した見守りシステムの導入



戦略3

「デジタルの力で備える」 災害に強い町へ

防災情報のデジタル化を推進し、スマートフォンやアプリを活用した迅速な情報伝達を実現します。市内の災害対応を一元管理するシステムを導入し、リアルタイムで状況を把握し、災害対応の精度向上を目指します。

具体的な施策

1. 3Dハザードマップの作成
2. 防災情報のデジタル化



戦略4

「持続可能な島へ」 スマートインフラの整備

会計業務のデジタル化や自動化を検討し、業務負担を軽減します。インフラの統合や施設管理の効率化を推進し、給水申請や集金業務をデジタル化。監視システムの改修により、公共施設の管理精度を向上させます。

具体的な施策

1. AIチャットボットによるごみ分別支援システムの導入
2. 地域猫活動データのデジタル化
3. デマンド交通システムのオンライン予約化



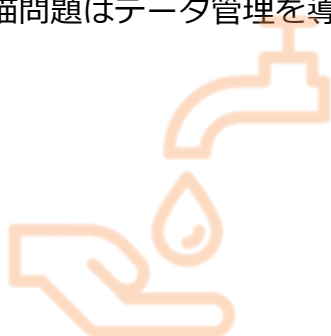
戦略5

「安心を実現する」 スマートな暮らし・環境の整備

AIチャットボットを導入し、ごみ分別の負担軽減と周知を強化します。紙媒体の分別ガイドも充実させ、高齢者にも対応します。野良猫問題はデータ管理を導入し、デマンド交通の導入も引き続き検討を進めます。

具体的な施策

1. 上下水道事業のデジタル化
2. 上下水道管路マップの電子化
3. 上下水道事業の広域化・共同化



しごとのDX では、農業・漁業・観光・中小企業支援においてデジタル技術を活用し、効率化と競争力強化を推進します。農業・漁業ではAIやオンラインツールを活用し、経営支援や生産力向上を図ります。観光業では地域産業との連携を強化し、新たな収益モデルを構築します。中小企業支援では経営相談やデジタル活用を支援し、持続可能な成長環境を整えます。

戦略1

「農業をもっとスマートに」

データとテクノロジーで実現する未来の農業

補助金申請のオンライン化や生成AI活用で業務を効率化し、農家の入力支援を強化します。スマート農業の試行を重ね、技術選定と成功事例創出を進めます。デジタルマーケティングを活用し、農産品のブランド化と収益向上を図ります。

具体的な施策

1. 補助金申請手続きのオンライン化と生成AIの活用
2. スマート農業技術の試行導入と効果検証
3. 農産品のデジタルマーケティング強化とブランド化



戦略2

「海を次世代へ」

デジタルで育む水産業の未来

スマート漁業では、AI活用のデータ分析・予測支援を強化します。藻場再生には地域適応技術の研究を支援します。個人出荷拡大のためオンラインプラットフォームを活用し、若手漁業者のデジタルスキル向上を推進します。

具体的な施策

1. AIを活用した水産資源のモニタリングシステム
2. 藻場再生に向けた環境データ収集とAI解析の実施
3. オンライン販売プラットフォームの構築とマーケティング支援
4. 若手漁業者向けデジタルスキル教育プログラムの実施



戦略3

「デジタル×おもてなし」 一歩先の離島観光へ

観光業と地域産業の連携を強化し、新たな観光コンテンツを開発します。顧客データを活用し、返礼品や体験型プログラムを創出します。農業・漁業とも連携し、地域の担い手を増やしつつ観光業の持続的発展を目指します。

具体的な施策

1. デジタル観光プラットフォームの構築
2. 無料Wi-Fiの整備とデジタルマーケティングの強化
3. 観光・地域産業向けCRMツールの導入



×



戦略4

「未来へ繋ぐ経済循環」 次世代型の小さな商圈への挑戦

商工会や専門家と連携し、外部の経営支援人材を確保し、定期相談会やフォローアップを実施します。デジタルリテラシー講習を充実させ、生成AIなどの活用を支援し、事業者の経営改善と成長を促す環境を整えます。

具体的な施策

1. オンライン経営相談窓口の設置
2. キャッシュレス決済の普及・促進



協働のDX

では、地域の持続可能な発展を目指し、協働のまちづくり、文化継承、観光振興に取り組みます。オンラインプラットフォームを活用し、多様な主体が交流・協力する仕組みを整え、地域資源の活用を促進します。また、伝統技術の保存と次世代育成を進め、デジタル技術を活用した文化発信を強化します。さらに、教育機関や民間企業と連携し、文化財保護と観光振興の両立を図り、地域の魅力向上を図ります。

戦略1

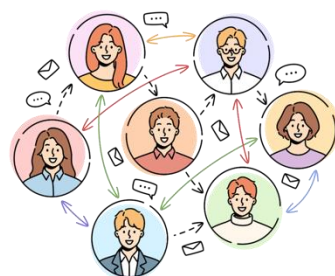
「二人三脚で未来へ」

官と民でつくる共創プラットフォーム

協働のまちづくり推進のため、オンラインプラットフォームを活用した「おぢか未来会議」を開催します。行政・町民・関係人口の交流を促し、アイデアや資源を共有する仕組みを構築し、地域への愛着を深める環境を整えます。

具体的な施策

1. 小値賀町シティプロモーションサイトの開設
2. オープンイノベーション※51の場の提供



戦略2

「歴史・文化を次世代へ」

デジタルと協働による文化継承

伝統技術の記録・保存と次世代育成を推進し、町内外の若者に体験機会を提供します。講座やワークショップを開催し、観光や地元産業と連携するほか、デジタル技術を活用し文化的景観の発信を強化します。

具体的な施策

1. デジタルアーカイブの構築
2. 伝統技術のワークショップ開催とアーカイブ化



戦略3

「町民とデジタルで守る」 世界文化遺産の継承

文化財保護と観光振興の両立を図り、教育機関と連携して世界遺産のカリキュラムを導入します。観光資源化のため民間企業と協力し、イベントを企画するほか、SNSやマスメディアでの情報発信を強化します。

具体的な施策

1. 地域町民と連携した観光コンテンツの開発
2. 教育機関との連携による文化財教育の推進



コラム②

挑戦する文化形成

職員が主体的に挑戦できる環境づくり

職員が自分のアイデアを積極的に試せる環境があると、新しい発想が生まれやすくなり、互いに応援し合う雰囲気が育ちます。**失敗を恐れずに実行できるよう上司や仲間が「まずやってみよう」と背中を押すことがDXを進める上では大切です。**こうした文化が育つと、日常のちょっとした気づきも見逃さず、町民サービスをより良くするきっかけへと変えていけると考えています。

小さな一歩から始める、継続的な変革

一方で、DXを一気に進めようとするとう惑いが大きくなりがちです。**最初はアナログのやり方を一部残しながら、できるところから変えていくアプローチ**なら、関係者の理解を得やすくなります。小さな成功が重なると「もっと良い方法はないか」と考える人が増え、自然と変革が続いていく土台ができます。そうして組織全体の意識と体制が少しずつ強化されることで、新たな価値やサービスが持続的に生まれ、町の未来を豊かにするDXへとつながっていくのです。

用語解説

用語	解説
AI	Artificial Intelligenceの略称。人工知能。コンピュータが人間の知能を模倣し、学習や判断を行う技術。
AIチャットボット	人工知能を活用した「自動会話プログラム」のこと。
BPR	Business Process Re-engineeringの略称。 業務プロセスを抜本的に見直し、再構築すること。
CRM	Customer Relationship Managementの略称。顧客情報を管理し、関係強化やマーケティング最適化を図る手法。
ICT	Information and Communication Technologyの略称。 情報技術(IT)を有効に活用したコミュニケーションを重要視する。情報処理だけではなく、インターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称。
RPA	Robotic Process Automationの略称。 これまで人間のみが対応可能と想定されていた作業、もしくはより高度な作業を、人間に代わって実施できるロボットやAIなどを活用して代行・代替し、自動化する取組。
SNS	Social Networking Serviceの略称。 情報共有やコミュニティ型の社会的ネットワークを構築するサービスやウェブサイトのこと。
Wi-Fi	ケーブルなしで機器同士をネットワーク接続すること。
イノベーション	新しい技術や発想により、価値創出や社会変革をもたらす革新。
オンライン資格確認システム	患者の保険資格の確認作業をオンラインで行う仕組み。
キャッシュレス決済	現金を使わずに、電子マネーやクレジットカードなどで支払いを行う方法。
サービスデザイン思考	サービスを利用する際の利用者の一連の行動に着目し、ユーザ本意の視点でサービス全体を設計する考え方。
スマート漁業	ICTやAIを活用し、漁業の効率化や生産性向上を実現する先進的な農業手法。
スマート農業	ICTやAIを活用し、農作業の効率化や生産性向上を実現する先進的な農業手法。
セグメント配信	居住地や購入履歴などの条件で絞り込み、対象となるユーザーに合わせた情報を送信するマーケティングの手法。
デジタルデバイド	情報技術（特にインターネット）の恩恵を受けることのできる人とできない人の間に生じる情報格差。
デジタルマーケティング	インターネットなどのデジタル技術を活用し、効果的に顧客へアプローチする手法。
データベース	情報を体系的に保存・管理し、効率的に活用する仕組み。
デマンド交通	利用者の予約に応じて運行する柔軟な公共交通サービス。
ドローン	遠隔操作または自律制御で飛行し、空撮や配送など多彩な用途に利用される無人航空機。
ハザードマップ	自然災害の被害予測や避難経路を示し、防災対策に活用される地図。

用語解説

用語	解説
プッシュ型	サービス提供者が利用者に対して積極的・能動的にサービス提供（プッシュ）する方法。利用者は行動することなく、受動的にサービスの提供を受けることができる。
プラットフォーム	システムやサービスの提供に必要な「土台となる環境」。
ペーパーレス化	ペーパーレスとは、紙媒体を電子化してデータとして活用・保存すること。
メンター	豊富な経験を活かし、後輩の成長とスキル向上を助言・支援する重要な指導者。
モニタリング	監視、観察、観測。対象の状態を継続または定期的に観察・記録すること。
リテラシー	本計画においては、DXを推進するのに必要な土台となる基礎的な能力。
公式LINE アカウント	コミュニケーションアプリ「LINE（ライン）」上で本町がアカウントをつくり、友だち追加してくれたユーザーに直接情報を届けられるサービス。